

経営指導員が発見! キラ★星 企業

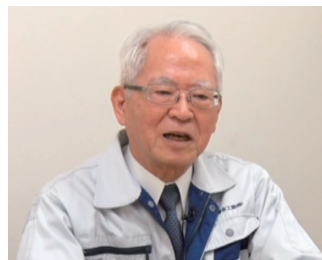
No.64

姫路商工会議所には様々な業種や規模の事業所が加入されています。

そのなかで、当所経営指導員が出会った「キラッ」と光る事業所の取り組みをご紹介します!



タンク内面電解研磨作業の様子



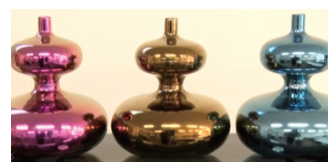
代表取締役会長 井田義明氏



代表取締役社長 井田統章氏



ニオブ製超電導加速空洞



ニオブ製ひょうたん型製品

現在までの歩み

1957年、現代取締役社長の井田統章氏の祖父、井田栄次氏が立ち上げた「マルイ鍍金工業株式会社」。当初は、姫路の地場産業である「鎖」の鍍金から事業を始めた同社だが、2代目に就任した現代表取締役会長の井田義明氏が、「ビジネスの幅を広げよう」と始めた電解研磨が、今の同社の看板技術だ。電解研磨とは、電流を流すことで、金属の表面を溶解し、平滑化する表面処理技術のことだ。電解研磨の特徴は、強い耐食性や、光沢感が出て、加工面が綺麗に仕上がる点だ。マルイ鍍金工業株式会社では、特に、医薬品や化学薬品製造用大型タンクの電解研磨で、全国でも5本の指に入る程の高い技術力を持っている。また、国内4拠点（姫路に2ヶ所、千葉、青森）と海外2拠点（中国、韓国）を持つネットワークの広さも同社の強みだ。国内4拠点では、タンク等の動かすことができない大型製品の表面処理を、出張作業で行うことができ、顧客の利便性に定評がある。また、海外の2拠点では、海外進出した日本企業に国内と同じ高い技術を提供できるため、日本企業のグローバル化の一翼を担っている。

技術開発に積極的に取り組み 新たな扉を開く

2011年、電解研磨事業を始めて、約25年の経験を積んだ頃、同社は巨大加速器「国際リニアコライダー」（以下、ILCと略す）の日本への誘致について、情報を得る。ILCとは、「ビッグバンを再現できる」と言われている巨大な実験装置だ。完成すれば世界で唯一となるこの施設の建設候補として、高い技術力を誇るものづくり企業が豊富な日本に、白羽の矢が立ったのだ。長年の電解研磨の技術で、電子と陽電子を加速させる超電導加速空洞の内面の表面処理に協力できるのではと考えた同社は、高エネルギー加速器研究機構に共同研究を持ちかけた。

超電導加速空洞に使われるレアメタル「ニオブ」は、マルイ鍍金工業株式会社としても、未経験の素材。技術開発は、一朝一夕にはいかな

「めつき屋はモノづくりの良き相談相手である」
姫路の地場産業「鎖」の鍍金から始まった「マルイ鍍金」。
その技術力は、世界初の研究施設に必要不可欠と言われるまでに成長!

マルイ鍍金工業株式会社

代表取締役社長 井田 統章

かったが、遂に、「ニオブ製超電導加速器空洞内面の電解研磨技術」を確立。この技術は、ILC技術者に高く評価され、令和元年度ひょうごNo.1ものづくり大賞も受賞した。そして、日本への誘致は未定ではあるが、ILC建設の際には、必要不可欠の技術となることは言うまでもない。

同社ではILCを通じて出会った「ニオブ」の啓蒙活動にも取り組んでいる。未だマイナーな金属ではあるが、同社ではニオブを使った製品の開発にも挑戦する。生体親和性が高いニオブを美しく発色させるための表面処理技術を確立し、金属アレルギーがある人でも使用可能なアクセサリを開発するなどして、姫路市のものづくり開発奨励も受賞した。今後は、人工関節などの医療用品に応用させることもできないかと、模索中だ。同社が生み出すニオブの新しい可能性に期待したい。

今後の展望

井田代表取締役社長は、「創業当時の鎖の鍍金は、今もマザービジネスとして当社を構成する大切な要素となっています。その後、父が事業を拡大させてきた電解研磨の技術を活かして、国際リニアコライダーの建設に貢献する「超電導加速空洞内面の電解研磨技術」など、最先端の技術開発に取り組んできました。今後は、表面処理のスペシャリストとして、地元の企業や世界中の企業と連携して、姫路発の新しいビジネスのマーケットを確立させていきたいです。今も、東アジアや東南アジアまで、ビジネスの幅を広げていますが、今後も人に役立つ技術を開発し、社会に貢献することで、世界中に当社のシェアを広げていきたいですね。」と語る。同社の今後の挑戦に目が離せない。

DATA

事業内容：電解研磨、精密洗浄、化学洗浄、溶融亜鉛めっき、無電解ニッケルめっき 他

所在地：〒672-8023 姫路市白浜町甲402
電話：079-246-0957 FAX：079-246-0719
URL：http://www.e-marui.jp